



全編
15頁

本篇
42頁

吸血鬼様

ちいさなメイトの

みだらな吸血

榎本 尚
enomoto nao

少年少女
半通

R18

吸血鬼様と ちいさなメイドの みだりな吸血2

榎本 尚
enomoto nao

この物語はフィクションです。
実在する人物、団体などは一切関係ありません。

This story is fictional.
It is not related to any real person or organization.

本作品の著作権は「榎本尚」に帰属しており、無断での複製や転載は厳しく禁じられています。
他のウェブサイト、印刷物、電子メディアなどへの転載は一切許可されません。
無断転載には法的措置を取る可能性があります。ご理解とご協力をお願いします。

The copyright of this work belongs to "Nao Enomoto",
Unauthorized reproduction or reprinting is strictly prohibited.
Reproduction on any other website,
in print or electronic media is strictly prohibited.
Reproduction on any other website,
in print or electronic media is strictly prohibited.
Unauthorized reproduction may result in legal action. legal action
may be taken against any unauthorized reproduction.
Thank you for your understanding and cooperation.

本作品版权归「榎本尚」所有，严禁任何未经授权的复制或转载。
禁止在任何其他网站、印刷材料或电子媒体上进行复制。
未经授权的复制可能导致法律诉讼。感谢您的理解与合作。

본 작품의 저작권은 '에노모토 나오'에 귀속되어 있으며, 무단 복제 및 전재를 엄격히 금지합니다.
다른 웹사이트, 인쇄물, 전자 매체 등에 무단으로 전재하는
것은 허용되지 않습니다. 무단 전재는 법적 조치를 취할 수 있습니다.
이해와 협조를 부탁드립니다.

君名前は？

かすみ

つきおか
月岡かすみ…です

女の人かと
思ってたけど
低い声…

男の人…

とにかく
こんなところで
ぐずるのやめてくれる

目障りだから

…ごめんなさい

ひゅん

立って

とりあえず
あんたの部屋どこ

……

はあ

別に取って
食ったりしない

警戒しなくていいよ
うっとおしいし

僕もここに
住んでるんだ

あんたと同じ

さっきの
デク木偶の坊もね

僕はあんたの世話を
言いつけられたから
仕方なく来ただけ

カガリさまが？

わたしのお世話……

そ

だからほら

いくよ

あんたの部屋
地下なんだね…

はい…

はい…

泣いてた理由は
聞かない

僕はあんたが
ここに慣れるまで
面倒をみるだけ

ありがとうございます
ございます

はあ

あんたはいつ
ここに来たの？

ここがどうい
場所かは知って
る？

いつ…
わからない…

ひと月前くらい…
だと思えます

「人ならざる者が
住まう館」って
聞きました

さっきのデクもね

人間なんて
この館にはいないよ

あんた
吸血鬼に連れて
来られたんだろ

なんで
そんなこと
なったわけ？

ミイラさんも
人じゃないんですか…？

道で倒れていた
かすみを助け…

違う…

助けて
くれたんじゃない

倒れていた
かすみを…

連れてきて
くれました

倒れてた？

なんで

……

その…お腹…
すいて…

こわくて…

おとうさ…
お父さんが…

……

もういいよ

支離滅裂だし

座って話しな

あっ

はい…

詳しくは
聞かない

ザシ

あんたにも
事情がある
みたいだし

あれは？

あんたの服じゃ
ないでしょ

あ…っ

も
も
め

ザッ

カガリさまに…っ

ほつれてるところ
直せて…

なんだそんなこと

いいよ
僕がやってあげる

…カスミが
言いつけられた
ことなんです…

でも…

かすみが…
出来ないこと
わかってて…

意味なんて
なかったんです…

はあ？

…なんか
よくわからないけど
とりあえずなに？

いびられてる
ってこと？

オシロトナがよ

いび…？

いいよ

これ僕がやるから
あんたがやったって
ことにして返しな

え…？

お母さんが
死んじゃってから
家事をする人が
いなくなつて…

お父さんが
家事は女が
やるものだって

ちなみにあんた
メイドって

聞いたけど
何ができるの？

えっ

えっ

あの…

すこしだけ
お掃除と…
お料理…

さいほう
裁縫できないくせに
そういうのは
できんのね

ふーん

まあいいや

今日は掃除とか
しなくていいから
休みなよ

あっ

あの…っ

ミ

あり…

やつてもらって
しまっているのかな…

ありがとう
ございます…

…どういたしまして

ちょっと怖い
雰囲気だけど

やさしい…
じつだった…

おい…

ミイラ男に
面倒を任せたが

役目を放棄して
いいとは
言っていない

ごめんなさい…っ

私が呼びつけたら
すぐに姿を見せなさい

…気まずい

どんな顔を
すればいいか
わからない

…ごめん
なさい…



私にご機嫌取りを
させるつもりか？

…いいえ



まだ機嫌を
直していないのか

不機嫌じゃ…
ないです…

どニがだ…
あのミイラも
かい
甲斐なしだな



ないなら
このまま
血をもらおうよ

や…っ



何が望みだ

なにも…

なら

何が
気に食わない？

…わかりません

でも…嘘
…ついて

いじわる
しました

こわ…かった

…嘘ね

まあそうなるのか

意地悪は
記憶にないが

カガリさまは
私のこと…
嫌いなんですよね…

何故そうなる



気に食わない者を
毎晩のように
抱かないよ

でも…
いたずらって
言っていました

はあ…

今から嘘は
つかない

…わかった

そういう
意味じゃない

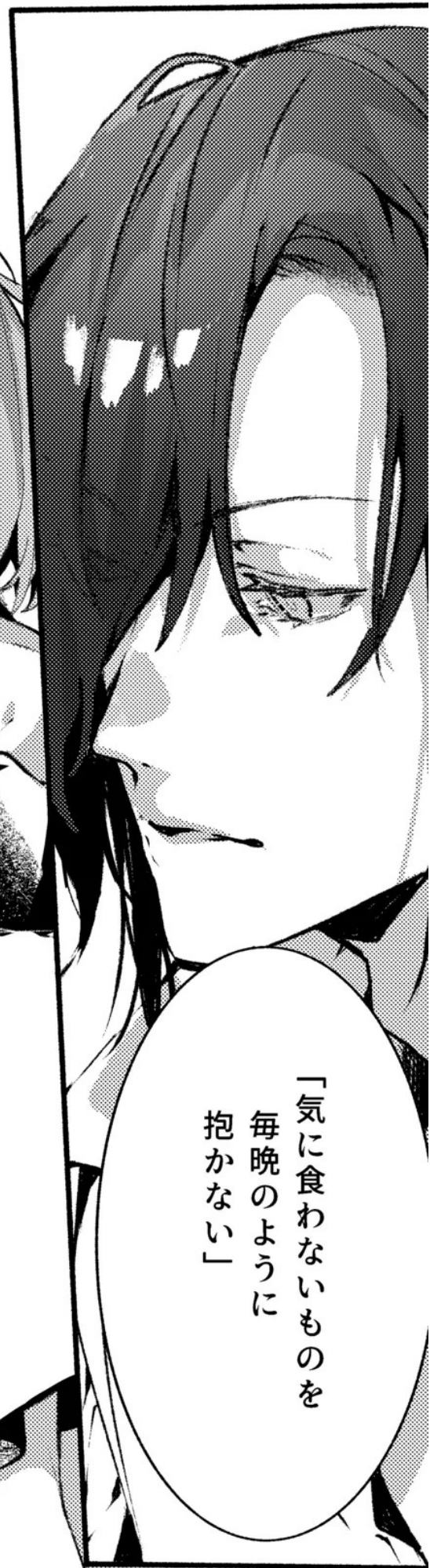
これでいいだろう



「うん、
痛いことも
嫌です」



少しこちらが
譲歩して



「気に食わないものを
毎晩のように
抱かない」

ずいぶん
随分気が大きく
なったじゃないか





最後の譲歩だ

じょうほ





そこ怖いです…っ

びくびくって
なっていや

痛くないだろう

痛くはない…
ですけど

カガリさま…っ

ひっッ

だめっ

こわい…っ

まあ
その内慣れる

ま

お前には
過分な快楽
なのだろうな



カガリさま…？

はあ

はずかし…ッ

ヘー

このかっつ

あ

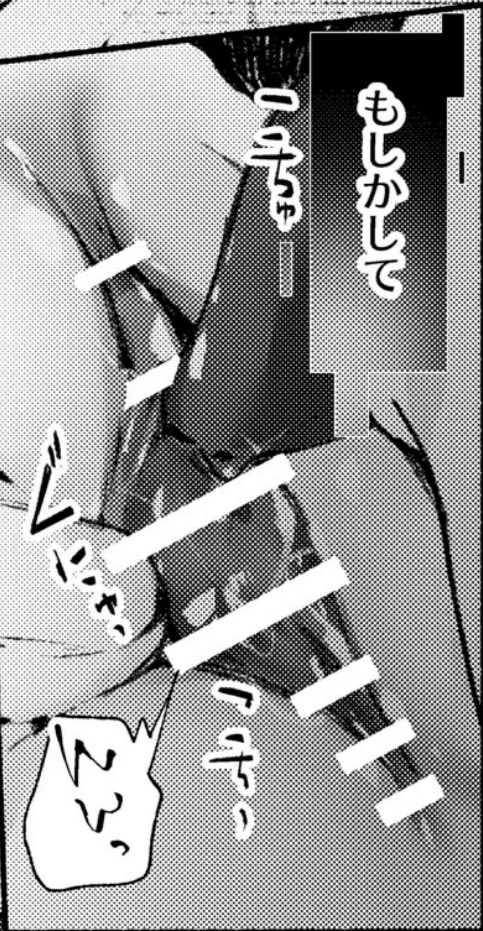
カガリさま…っ



なんだか刺激が
弱くなった...?



やさしくして
くれてるのかな...?



これで
いいだろう

カガリさまが
何を考えてるのか
わからない...

はあ

よく見ろ

ん

ん

自分の身体が
どうなっているか

ほら

ん

ん

ちっ
膣はこうして濡らし
あふ
溢れさせているだろう





そのくらいは
できるだろう



まずは指からだ



っ…



何も言わぬなら
このまま私の
ものを挿入れるよ

痛いのは
嫌なのだろう

なら指で中を
慣らしておいた方が
いいんじゃないか？

いや…

お前から
ねだ
強請
って
みろ

でも…

い…いたいのはいやだ…

賢明に
なりなさい

お前は今なんと
答えるべきだ

…あっ

そうだ…

…ゆ
ゆびで…

中…を

カガリさまには…
逆らえない

…して
…ください



中を



どうしてほしい

…ッ



やさしく…

ハ
ア
ア

…まあいいだろう



じゃあ
なんて言えば
よかったの



下品な台詞を
吐かせたい
わけでもないからな



指も入り
やすくなった

痛みもそれほど
ないだろう

まずはひとつ

ぬ、

ぬ、

ん

ん

あ

あ

ぐ

ん

ぐ

あ

ん



気持ちがいいのだな

きもちい...？

カガリさま...

気持ちいいの...？

また
びくびく...ッ
しちゃ

ああ
気をやりそうか





あ…っ？

んっ

カガリさま…っ

ぬっ

あの…

おくちで…

くわ
啜えたいのか？

ぬん

ぬち

ばいた
売女のような
ことを言うように
なったな



結構だ

ずいぶん
随分時間を
かけたすぎた

あまり気が
長い方では
なくてね



ば？

いつも
してた…から

フニャ



あ
しなくて
いいんですか…？

ムン

口内^{くち}に出したい
わけでもない

ああ
外にもね

：膣内^{なか}に出さねば
意味がないのだ

膣内^{なか}に…？

：ああ
そうか



奥だ

ああつ

まって
かがりさま

もつと奥に

やはり焦らすのは
性に合わないな

ぎ

やあ

あ

だが普段より
幾分か腔内が
ほぐれて……

動きやすい

あッ

うっ



んっ

ふ

ふ...うッ

あ...ッ

お

お

お

お

お

お

お

お

お

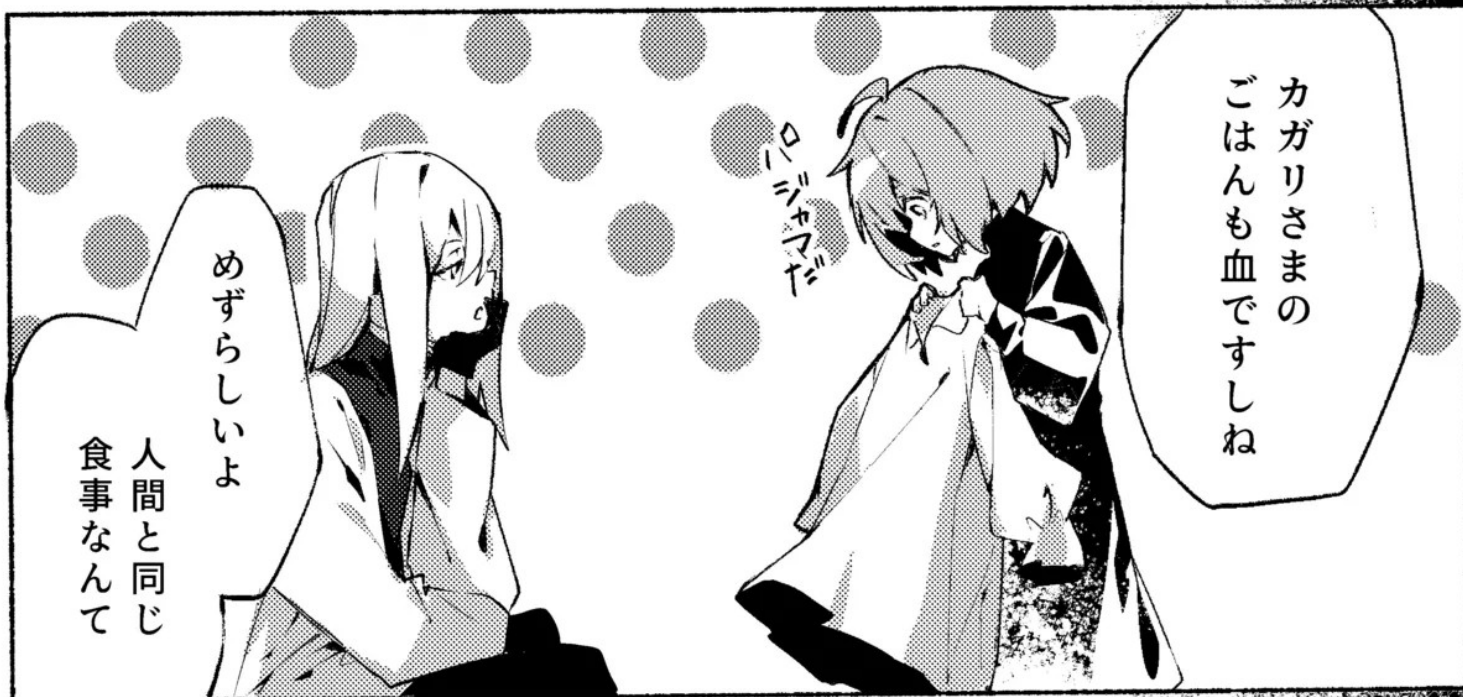
頭が……
真っ白になる……ッ











カガリさまの
ごはんも血ですしね

ロジャワダ

めずらしいよ

人間と同じ
食事なんて



味もするの？

へえ

そりゃいいね

はい…

え？

はい

…あつ



「ここは
人ならざる者が
住まう館」でございます

もしかして
私も怪物だと
思われてる…？

僕も食べられない
こともないけど

味なんてしないよ

あ

あの

人間で…

…は？

えっと…
私はその

…まさか

気づいてないのか

え…？

……

…君は



死んでるんだよ

—あとがき—

本作品をお読みいただき、誠にありがとうございます。
もし、つづきを待ってくださっていた方がいらっしやいましたら、
大変お待たせいたしました。

本当は前半後半で描く予定だったのですが、
モチベーションのため、後半の丁度いいところで区切った
形でなんとか完成させました……！

本編、番外編共にプロットは最初の時点で
できてはいるので、最後まで描けたら……いいナ！
本編にも番外編が付く予定。

それでは、またいつか……！



2025.5.22

本編にかくれぱんだしゅんがいるよ！
ひまつぶしをしたいときに探してみてね！





お前は

いつも焦げた
臭いがするな



獣みたいな
嗅覚だな

コソ

今も消えない



僕の肌を焼く



炎が



なにずっと
顔隠してんだよ

けろろろ

髪伸ばして
女みてエ

おい
口無しこげんぼ

口ついてんのか？

マスク外して
見せてみろよ

お前
押さえてろ

おいおい
触ったら
お前も移る…

ぞ…



…目は？

そっちは
どうなってるんだ？

おい
やめとけ…

何してるの



ひっ

うっわ…



ゆのはら
湯原



…いつも
やられっぱなしで
悔しくないの？

別に…



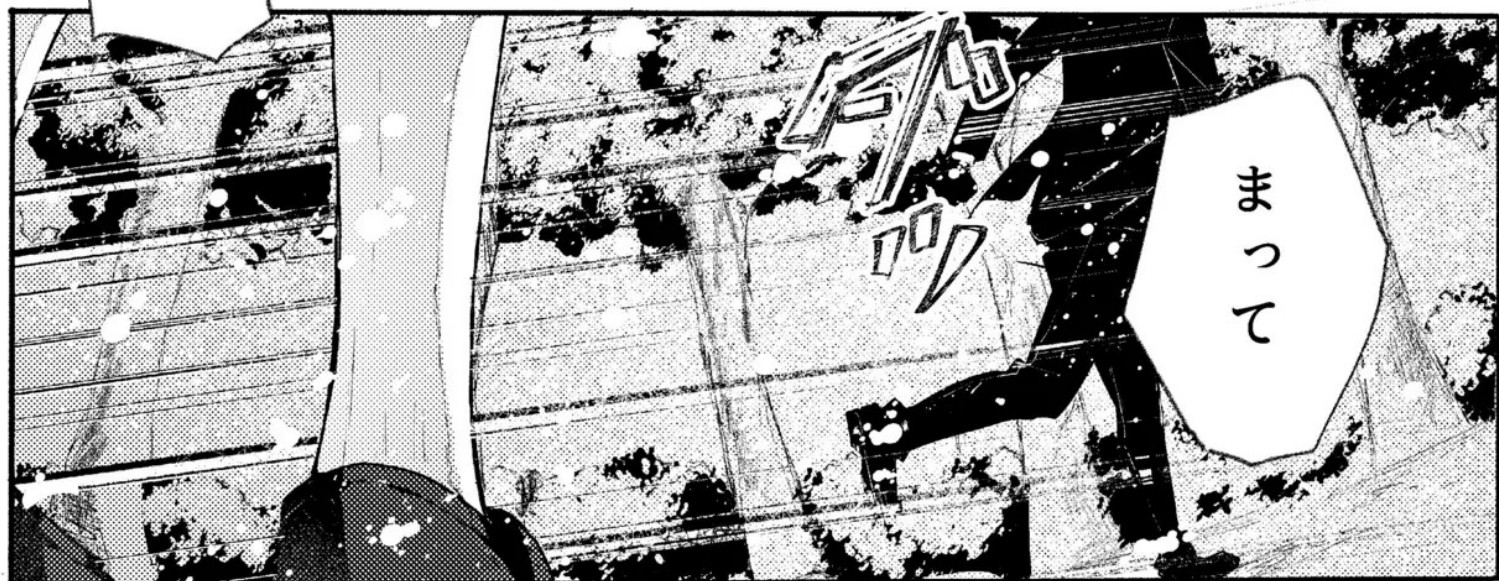
貴方たち
トイレの掃除当番
だったでしょ

うるせえな

サボってないで
戻りなさいよ

触るな！







聞いた？
三神さんの

ああ、息子さん
びっくりしたわよ

前はあんなに
礼儀正しくて
良い子だったのに

自殺なんて



君だよ

ちがう

僕は
そんな顔じゃ

……



う……

どこだ……？

だれだ

カウソ

来るな

カウソ……

来るな

誰だよ
おまえ

顔……

僕の頭が

イタイ

必要だろう

顔が



奪えばいい



欲しいものは

僕^{キミ}自身の手で

僕に怯えた女

顔の綺麗な女

ほしい

な

僕よりも美しい女



え

ゴト...





そして僕は

うつくしい怪物になった

END